

令和6年度第8回ヨコハマeアンケート

青少年の成長におけるサードプレイスと本市の「青少年の地域活動拠点づくり事業」に関するアンケート

実施期間 令和6年7月19日（金）から7月29日（月）

事業所管課 こども青少年局 青少年育成課

回答者数 1,181人（回答率：24.7%）

【参考】eアンケートメンバー数 4,776人（7月19日時点）

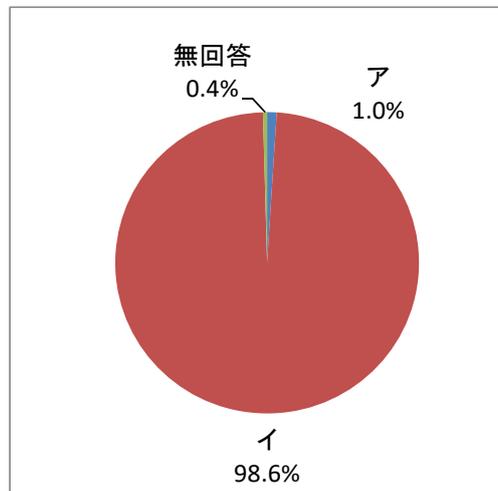
年代別、横浜市内在住・在勤・在学別の回答者構成比

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
横浜市内在住	1 (0.1%)	22 (1.9%)	66 (5.6%)	176 (14.9%)	340 (28.8%)	345 (29.2%)	223 (18.9%)	1,173 (99.3%)
横浜市内在勤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	3 (0.3%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)	8 (0.7%)
横浜市内在学	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	1 (0.1%)	22 (1.9%)	67 (5.7%)	177 (15.0%)	343 (29.0%)	347 (29.4%)	224 (19.0%)	1,181 (100.0%)

Q1 あなたはどの属性にあてはまりますか。ご回答ください。
(単一選択)

n = 1,181

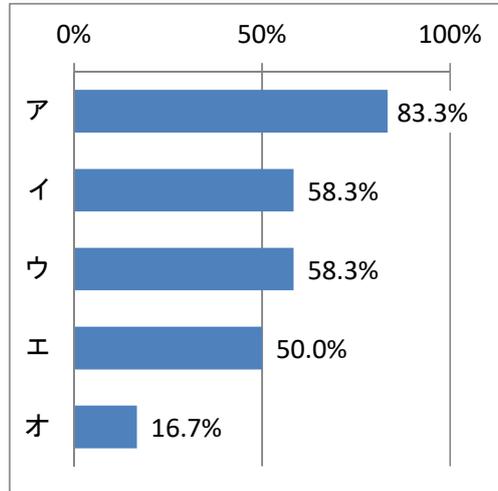
ア	学生(高校生・専門学校生・短期大学生・大学生など)の方 (Q2へ)	1.0%	12
イ	上記ア以外の方 (Q3へ)	98.6%	1,164
無回答		0.4%	5
		100.0%	1,181



Q2 Q1で「ア 学生(高校生・専門学校生・短期大学生・大学生など)の方」を選択した方にお聞きします。
 あなたが居場所だと思う場所のイメージをご回答ください。
 (複数選択可)

n = 12

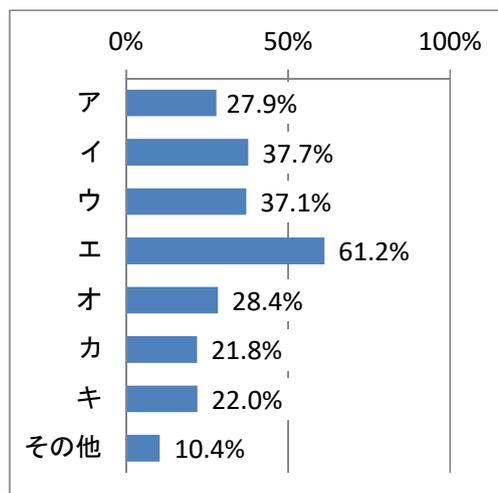
ア	ほっとできる	83.3%	10
イ	自分の好きなことができ、夢中になれる	58.3%	7
ウ	友達をはじめ、他の人と話すことができる	58.3%	7
エ	ひとりになれる	50.0%	6
オ	誰かが見守ってくれている	16.7%	2



Q3 全員にお聞きします。
 平日の放課後や休日の過ごし方として、家庭や学校以外でどのような場所で過ごしていますが。
 ・学生(高校生・専門学校生・短期大学生・大学生など)の方は現在のご自身の過ごし方を
 ・それ以外の方は子どもたちに過ごさせたい場所または学生時代に過ごしたかった場所を
 ご回答ください。
 (複数選択可)

n = 1,181

ア	友人の家	27.9%	329
イ	塾、習い事	37.7%	445
ウ	公園	37.1%	438
エ	公共施設(青少年の地域活動拠点、図書館、地区センター、ケアプラザ等)	61.2%	723
オ	商業施設(ショッピングセンター、スーパー、コンビニ等)	28.4%	335
カ	飲食店(カフェ、ファミリーレストラン等)	21.8%	258
キ	アルバイト	22.0%	260
その他		10.4%	123



その他(抜粋)

自宅
部活動(クラブ活動)
趣味の場

**Q4 Q3でその場所を選んだ理由をお書きください。
(自由意見)**

(抜粋)

公共施設のため安全が確保される
学校では学べないことを学んでほしいから
親や先生だけでなく、友達と遊んだり、他の大人(友人や地域の人)に見守られながら、交流ができる場がいいと思うから。

Q5 本市では中高生の世代を中心とした青少年が安心して過ごすことができ、様々な世代との交流や体験活動ができる居場所として「青少年の地域活動拠点※」を市内に7か所設置していることを知っていますか。1箇所でも知っている、利用したことがある場合は、その場所についてご回答ください。

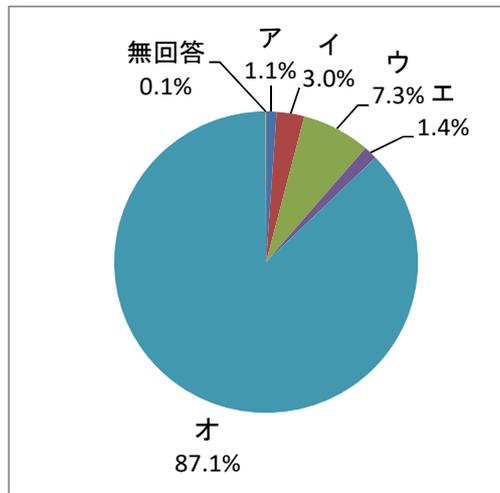
※【各区の拠点の名称】

- ・青葉区「あおばコミュニティ・テラス」 <https://aobact.com/>
- ・磯子区「イソカツ」 <https://iso-katsu.com/>
- ・金沢区「カナカツ」 <https://kana-katsu.com/>
- ・栄区「フレンズ☆SAKAE」 <http://friendssakae.jp/>
- ・都筑区「つづきMYプラザ」 <https://tsuzuki-myplaza.net/>
- ・保土ケ谷区「ハッピースクエア」 <https://reroad.jp/happysq/>
- ・南区「M-Base」
https://super-ykst.jp/business/commissioned_business/location_support/mbase

(単一選択)

n = 1,181

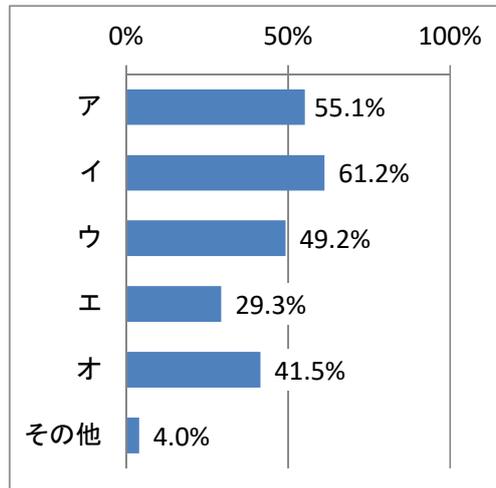
ア	利用したことがある	1.1%	13
イ	名前も場所も知っている	3.0%	35
ウ	名前は知っている	7.3%	86
エ	場所は知っている	1.4%	17
オ	知らない	87.1%	1,029
無回答		0.1%	1
		100.0%	1,181



Q6 学生(高校生・専門学校生・短期大学生・大学生など)の方にお聞きします。青少年の地域活動拠点でどのような活動をしたいですか。
 学生(高校生・専門学校生・短期大学生・大学生など)以外の方は、子どもたちが同拠点でどのような活動をするのが望ましいと考えますか。ご回答ください。
 (複数選択可)

n = 1,181

ア	多世代や異文化との交流	55.1%	651
イ	家庭や学校ではできない体験活動	61.2%	723
ウ	ボランティアやまちづくりへの参加	49.2%	581
エ	イベントの企画	29.3%	346
オ	自習、学び合い	41.5%	490
その他		4.0%	47



その他(抜粋)

居場所のない若者も多くいると思うので、そういった若者たちの居心地のよい場所であってほしいと思いました。世代にしばられず、いろいろな世代がいるのも良いのではないのでしょうか。

青少年の地域活動拠点がどのような場所か分からないのでなんとも言えない。

Q7 全員にお聞きします。
 Q6で選択した活動が望ましいと考える理由をお書きください。
 (自由意見)

(抜粋)

学生は色々な人達によって人間形成される大切な時、たくさんの人と会って色々な経験をしてほしい。

自治体を実施している青少年が活動できる居場所であるならば、安心安全を前提に、学校や家庭ではできない体験活動を提供してもらえると、子どもの成長にも繋がるので、有り難いと思います。

活動を強要する場ではなく、主体的かつ自由に好きなことや学びたいことができる空間であれば良いと思う。大人がやらせたいことよりも、子どもの主体性を尊重した施設の方が居心地が良いと思う。

Q8

全員にお聞きします。

青少年の地域活動拠点をはじめとする子どもを対象にした「第三の居場所」について、あったらいいこと、続けてほしいことをご回答ください。

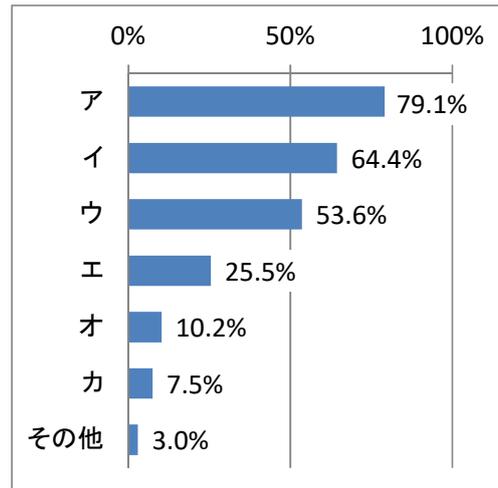
※「第三の居場所(サードプレイス)」: 家庭や学校以外で、安全に安心して過ごすことができ、多世代交流や体験活動などができる場所

※「カ 特にない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。

(複数選択可)

n = 1,181

ア	いつでも行くことができる(放課後以外の休日や平日の日中も開所している)	79.1%	934
イ	スタッフの見守りがある	64.4%	760
ウ	スタッフに悩みことの相談ができる	53.6%	633
エ	オンラインで居場所に参加できる	25.5%	301
オ	メタバースなどインターネット上の仮想空間での居場所がある	10.2%	121
カ	特にない	7.5%	88
その他		3.0%	35



その他(抜粋)

小規模で良いので、各地域に作って欲しいです。遠方だと、わざわざ行かないと思うので、自宅の近くや、学校のそばに作って欲しいです。また、学校の中にあるのも魅力的に思います。※その学校に通ってなくても利用できれば、憧れの大学の中で活動できる等も魅力的で、子ども自身が自ら行きたいと思う場所にしてほしいです。

Wi-FiをつなげてPCで自習ができるようにしてほしい(特に大学生は、PCを主に使うため) 夜間も開所してほしい。コミュニティハウスは、その地域の人が使うものというイメージがあり、行きづらい。

メタバースなどは必要ないが、青少年の地域活動拠点はオンラインで繋いでも良いかもしれない。あと拠点が圧倒的に少ないので、増やした方がいい。

Q9 学校、家庭以外の「第三の居場所」や、横浜市の「青少年の地域活動拠点」全般について、ご意見がありましたら自由にお書きください。
(自由意見)

(抜粋)

行ってみたいけど、一人だとためらいがあるかもしれない。西区や中区等、繁華な場所にも活動拠点を用意すると良いと思う。
活動内容や希望情報をいかに対象者に発信できるかが重要であるが、それにより、活動内容に対する意見を取り入れて、興味ある内容に変えてほしい
中学生以上がいつでも行けるスタッフが常駐している施設があればと思います。ただぼんやりしているだけ、能動的に活動しても良い、など自由に過ごせると良いと思います。
学校に行きづらい生徒などもここなら来やすい場所を作って、いつでも行ける場所があったら何か変わるのかなと思う。
不登校や引きこもりという視点に配慮した居場所が必要だと感じている。
年齢が近い大学生や専門学校生が関わってくると、心強いと思う。最初の一步は勇気がいるので、企画がきっかけになるかもしれません。拠点を活用する方に声をかけて、大人や企業に協力してもらえたらいいと思う。
青少年達が本当に安心して過ごせる場所となるには、スタッフの質が何よりも重要だと思います。青少年が悩みを気軽に相談でき、それに対して、まずは受け入れ、広い視点からアドバイスをできるようなスタッフを配置し、研修を続けることが大切だと思います。
「地域活動」という名称がすごく「重たい」印象を受けます。なにかしななければならないのか？というイメージです。活動ではなく、今は思いつきませんが、「居場所」「居心地」「逃げ場」「未来創造」など活動しなくても、「居ても良い」「いつでも空間」「秘密基地」そんな行きたくなる、のぞいて見たくなる「わくわくどきどきスペース」の名称が良いのではないのでしょうか。